

F2-45

中国の集合住宅における緑に対する居住者意識 —中国・江蘇省常州市の団地陽湖名城・文淵居を事例として—

A Study on the Residents' Cognition about the Green of Community in China

—Taking the Communities Yanghumingcheng and Wenyuanju at Changzhou in Jiangsu of China for Example—

○卞丹青¹, 小木曾 裕², 山崎 晋²

*Dan Qing Bian¹, Yutaka Kogiso², Shin Yamazaki²

Abstract: Since the reform opening policy of 1980, China has built a large number of communities with a rapidly developing and expanding population. Green in the living environment is indispensable to people. In this study, we conducted the questionnaire and web survey for residents in two communities and analyzed later. Through this research, we know that it's important to strengthen management and prune trees regularly in the community.

1. 背景と目的

中国は、1980の改革開放政策以来、急速に発展・拡大を続ける人口とともに、大量の集合住宅が建設した。緑は、人の居住環境にとっては不可欠の存在で、都市の貴重な財産である。

本研究は、中国の築年数あるいは戸数が近いの集合住宅を調べて、居住者は集合住宅内の緑資源に対する意識と満足度を調査して、中国人の集合住宅に対する緑の意識の差を明らかにすることを目的とした。

2. 調査方法

(1) 調査対象地の選定及び概要

現在の中国、改革開放により、目覚ましい経済発展を遂げた。経済発展に伴い、急激な都市開発を展開した。この状況で「国際花園都市」栄えある称号を受けた中国江蘇省常州市武進区をここで取り上げることにした。

武進区の集合住宅、陽湖名城(以下A地点)(図一1)、文淵居(以下B地点)(図一2)として選定した。A地点は、常州の東北にある。東に降子南路、南に虹北路、北に長安路、西に常武路、交通の便利のところに位置し2005年完成した。敷地面積は220,000㎡で、建築面積は350,000㎡で、緑化率は35%である。戸数は2,200戸で基本的に2,3世代の家族構成である。B地点も、常州の東北にあり、2007年に完成した。まちの幹線道路定安路に隣接している。敷地面積は190,000㎡で、建築面積は560,000㎡で、緑化率は65%である。戸数は1,248戸で公園などの付属施設がある。

(2) 調査方法

2018年8月18日から8月24日に各地点で緑化量と総合的な緑のイメージの写真を撮り、居住者にヒヤリングをした。居住者にウィチャットグループ内ウェブ

調査と各地点で同一のアンケート調査(10項目)を行い集計し分析した。



図一1 陽湖名城 [1]



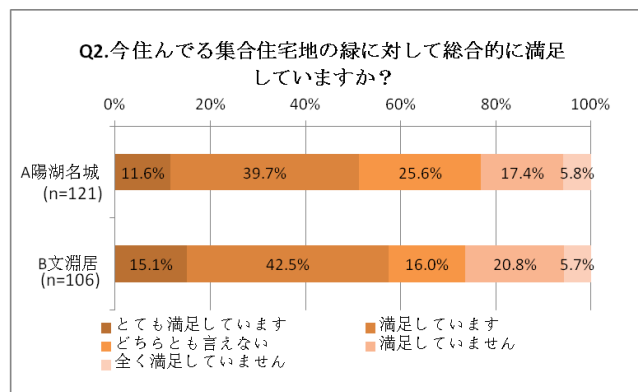
図一2 文淵居 [2]

3. 結果と考察

アンケート調査は全回答者数が227名で、A地点121名(ウェブ調査104名、紙バージョン17名)、B地点106名(ウェブ調査106名)となった。Q2「緑に対して総合的に満足していますか」の回答内容(図一3)はA地点は「とても満足・満足」と回答した人は51%、B地点は58%であった。主な理由としてA地点では「緑

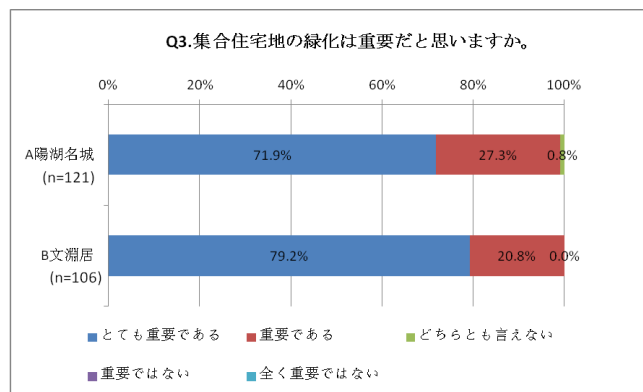
1: 日大理工・学部・まち 2: 日大理工・教員・まち

が多く管理が良くない」などがあり、B地点では「樹木が多い緑化面積が広い」であった。また共通の理由として、「緑地の管理が良くない、日常的な剪定もしていない」「芝生の雑草が多すぎる」というものが多く見受けられた。B地点の緑化率はA地点の約2倍で、両地点の居住者の満足度が近いから見ると、日常的な管理による居住者の総合的なイメージへの影響があることが示唆された。



図—3 緑の総合的満足

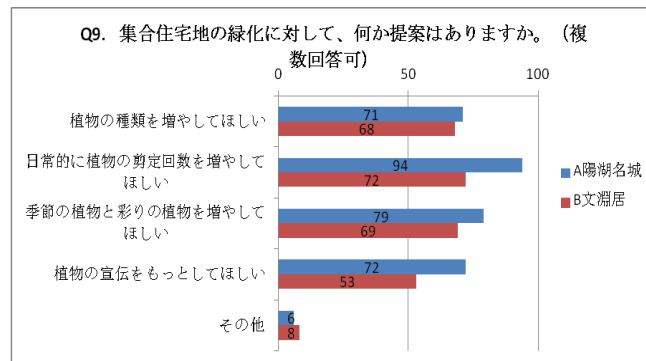
Q3「緑化は重要だと思いますか」の回答内容(図4)は「とても重要・重要」と回答した人は、A地点は99.2%、B地点は100%であった。ほぼ全員が住宅地の緑化は重要であることがわかった。近年の居住者は生活環境の追求は高くなっていると考えられる、緑環境への関心の高まり、これからの住宅地の開発は、建物本体だけでなく、緑地を含めた日常的生活空間全体への配慮が必要ということがわかった。



図—4 緑化の重要性

Q9「緑化に対して、何か提案はありますか」ではA地点は58.7%が「植物の種類を増やして、景観を更に豊かにする」が回答し、B地点は65.4%であった。「日常的に植物の剪定回数を増やしてほしい」は、A地点77.7%、B地点は69.2%であった。A地点は65.3%が「季節の植物と彩りの植物を増やしてほしい」と回答し、B地点は66.3%であった。これらのことから、緑化の

定期的な剪定は、両地点共通の要望であることがわかった。



図—5 緑化への提案

Q10「集合住宅地内の緑化について、何かコメントがあれば教えてください」については、管理への要望は、A地点は25件で、B地点は17件であった。その中で、「管理を強化して、人為的な破壊現象をないようにしてほしい」、「良い環境を続けてください」などがあった。緑化の定期的な剪定に関する要望はB地点が17件あり、その中で「高木を剪定しないと、強風で折れる可能性がある」、「高い樹木で家の採光に影響しないようにしてほしい」、「緑化は運転手の視野を遮らないようにしてほしい」などと言っている人がいることがわかった。

4. まとめ

A地点とB地点内の緑環境について、緑は多く、緑化面積が広い、居住者の評価も高いが、住宅地内の緑地の管理が良くない、宣伝が少ないなど足りないところもあることがわかった。

また、よりよい住環境をつくるために、日常的に植物の剪定回数を増やすことや、季節の植物と彩りの植物を増やすことが重要と考えられる。

更に今後は、日本の集合住宅の緑の意識と比較して研究を深めていきたい。

謝辞：本研究のアンケート調査において、陽湖名城、文淵居の居住者の方々に御協力をいただき感謝する。

参考文献

- [1]https://timgsa.baidu.com/timg?image&quality=80&size=b9999_10000&sec=1537508650224&di=b18482305c2f27%2f2f20098271528127304288.jpg
- [2]https://timgsa.baidu.com/timg?image&quality=80&size=b9999_10000&sec=1538103903&di=6fea1c949950c73f79bd158dc6e48383a_p7_mk7_cm263X197_wm47.jpg